

## ＜令和5年度学校研究の概要＞

### I 昨年度までの学校研究の成果と課題

- ◎「必要な情報を取得すること（情報活用力）」や「学習の見通しをもつこと（課題発見力）」「学習方法を選択すること（ICT活用）」が向上した。
  - ◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業実践を重ね、その中でICTを活用しながら探究活動を行うことができた。
  - ▲本校で目指す資質・能力に関して「対話力」「情報活用力」「課題発見力」において、向上した点はあるものの課題が残る点もあった。
- ⇒目指す資質・能力がより効果的に育成されるような授業・単元デザインの構築が必要である。

### II 研究主題・副題・年間の流れ

研究主題	対話とICTを活用し、自ら進んで探究する児童の育成
副題	～資質・能力を効果的に育む授業・単元デザインの構築～

【研究仮説】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を含めた資質・能力を効果的に育むことができる授業・単元デザインの構築によって、主体的に学ぶ態度が養われ、対話とICTを活用しながら、自ら進んで探究する児童を育成することができるであろう。

### III 目指す児童像

- ・互いに認め合う対話を通して探究する姿
- ・ICTを効果的に活用しながら探究する姿
- ・課題を見つけ、自分にとって最適な学び方を用いて探究する姿

### IV 今年度の研究の重点

#### 資質・能力を効果的に育む授業・単元デザイン

複線型や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を含めた資質・能力を効果的に育むことができる授業・単元デザイン構築の研究

## V 研究構想図

### 学校教育目標

生きよう！のびよう！たくましく！ 夢を抱き、未来を拓く！  
～ GRIT & GO！ やり抜く力で、前進！ ～

### 研究の目標

対話とICTを活用し、自ら進んで探究する児童の育成  
～資質・能力を効果的に育む授業・単元デザインの構築～

### 育てたい3つの 資質・能力

対話力

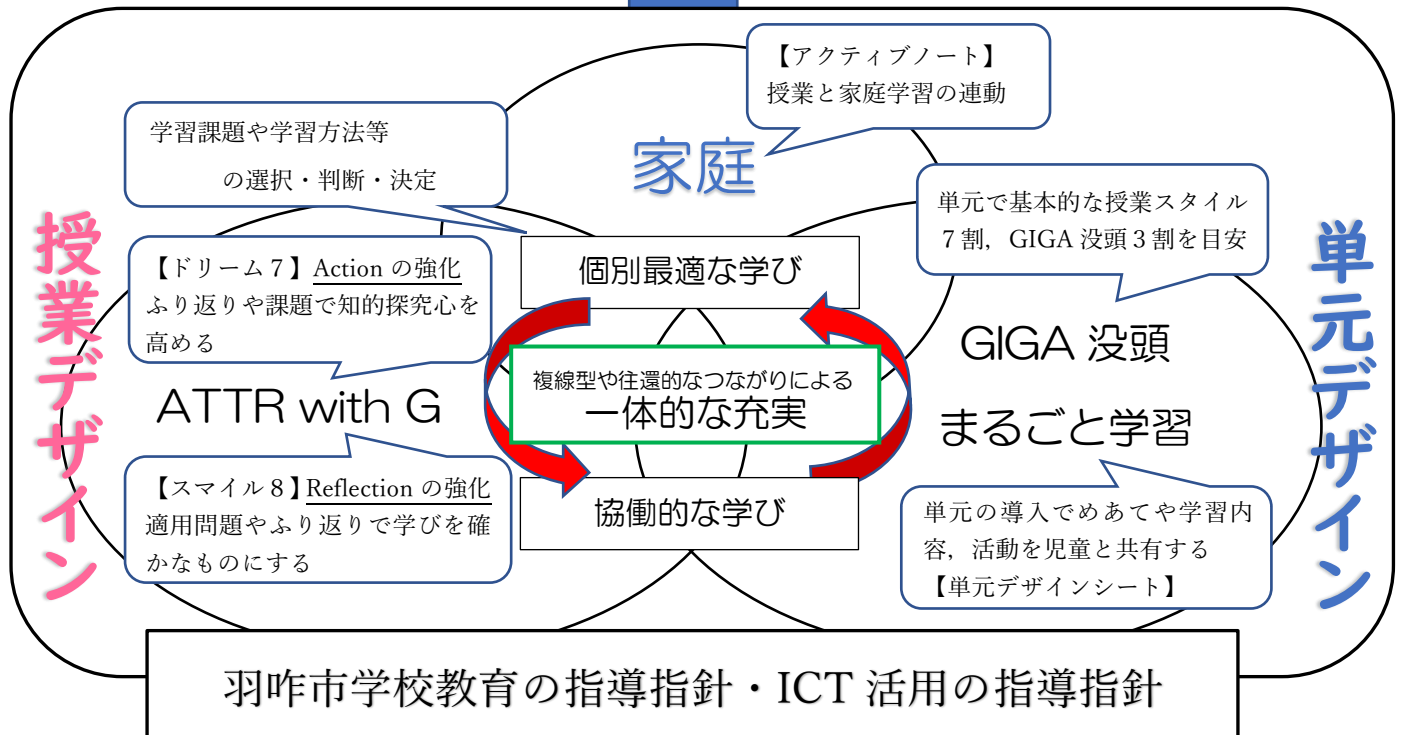
情報活用力

課題発見力

### 探究パラダイス

探究による主体的・対話的で深い学びの実践

物事の本質を追究する探究活動の中で、対話やICTの活用や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、「なるほど、そういうことか」という納得解や最適解を引き出したり、「もっと～したい」という学ぶ喜びを生み出したりすることができる授業づくり



### 研究を支える取り組み

	探究	GIGA	日常化
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生による探パラ講座</li> <li>対話力向上トレーニング</li> <li>1人1プレゼン</li> <li>オーセンティックな学び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハピネスアカデミー視聴</li> <li>AIドリル</li> <li>デジタル図書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生発信の学習規律づくり(集会)</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1研究授業</li> <li>1人1実践(実践レポート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAトレ&amp;チャレ掲示</li> <li>GIGA校内研</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAレポート</li> <li>相互授業参観</li> </ul>

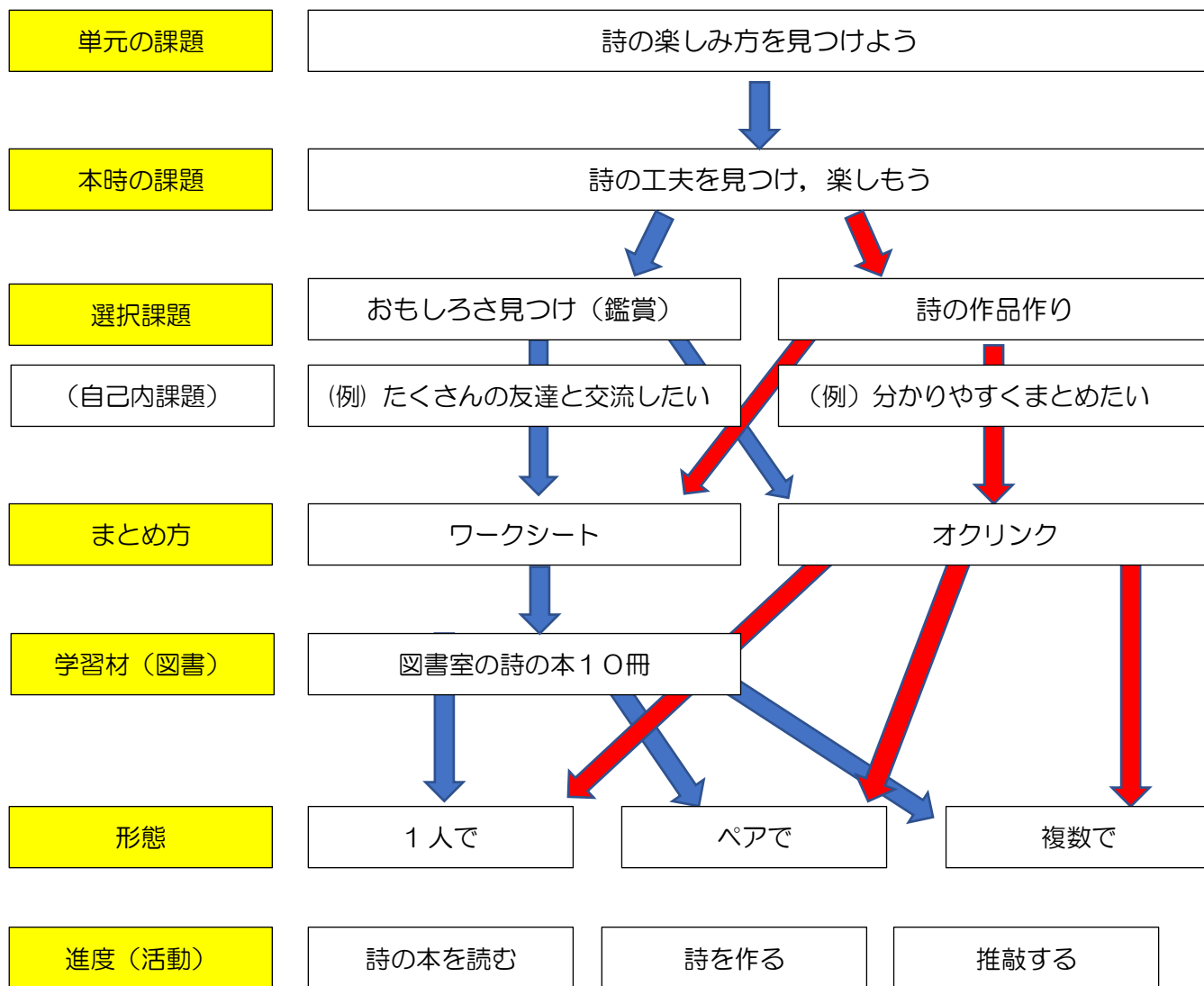
## VI 研究の内容

### 1 授業デザインの構築

(1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」が往還的につながる授業

学びの場面 (3める・ATTR)		取組内容	手段・ツール(例)
個別最適な学び	決める	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>NEW</b>            【ドリーム7】Actionの強化            振り返りや課題で知的探究心を高める         </div> 【個Aパターン】 自ら学習課題を見つける。選択する。	※1 デジタル教科書 オクリンク ロイロノート ムーブノート Google ドキュメント ・スプレッドシート ・スライド ・クラスルーム
		【個Bパターン】 自力解決を図る。 (教師はすべての児童が一定の目標を達成することができるように、個別の指導・支援を充実させる。)	
		【個Cパターン】 自ら最適な学習方法・学習形態等を選択・判断・決定した上で、自力解決を図る。	
協働的な学び	究める	【協Aパターン】 個別最適な学びを確認する・生かす・深める。	オクリンク ロイロノート ムーブノート Google ジャムボード
	【協Bパターン】 みんなの考えを比較・分類する。		
個別最適な学び	確かめる	【個Dパターン】 自分の考えを見直す・修正する。	※1
		【個Eパターン】 本時を通して身に付けたい力が身に付いたかを確認する。	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>NEW</b>            【スマイル8】Reflectionの強化            適用問題や振り返りで学びを確かなものにする。            ここで【書き切る力】も育成する。         </div> ドリルノート
		【個Fパターン】 振り返りを通して、今後につなげる。	

(2) 1 単位時間における複線型の授業（選択肢を増やすことで児童の主体性を促す）



友達と交流

教師と相談

1人やペア、グループと必要に応じて最適な学習形態を選択



自然とグループをつかって交流



個別の学習で分かったこと、疑問に思ったことを全体共有の場で確認

### 3 研究を支える取り組み

#### (1) 対話カトレーニング（めざせ！「1往復半のやりとり」を！）

	低部会		中部会		高部会	
	話し方	聴き方	話し方	聴き方	話し方	聴き方
Lv1	まずは話す	体（おへそ） を向けて	まずは話す	体（おへそ） を向けて	相手を見渡しながらか 話す（全員）	うなずきなが ら
Lv2	相手を見ながら話す （ペアやグループ）	話し手と視線 を合わせる	二文以上で話す 例「わけは…からで す。」「だから…した いです。」	アクティブワ ード反応	相手に問いかけながらか 話す 例「だと思 うけど、どう？」「こ こまで分かる？」	うなずきなが ら
Lv3	相手に聞こえる声で 話す	うなずきなが ら	相手を見渡しながらか 話す（全員）	話し手と視線 を合わせる	体を使って話す（身ぶ り、手ぶり）	アウトプット （話したこと のリピート）
Lv4	二文以上で話す 例「わけは…からで す。」「だから…した いです。」	アクティブワ ード反応	反応をうながしながら 話す 例「～だよね。」「～し てください。」	自分なりの反 応を返す（ワ ンフリーズ）	友達の話や叙述を自 分の言葉で話す	アウトプット （考えのつぶ やき）

#### 話し方 レベルリスト

### 話し上手を育てましょう！

- ① まずは話す
- ② 相手を見ながら話す（ペアやグループ）
- ③ 相手に聞こえる声で話す
- ④ 二文以上で話す 例「わけは…からです。」「だから…したいです。」
- ⑤ 資料を指しながら話す
- ⑥ 相手を見渡しながらか話す（全員）
- ⑦ 反応をうながしながら話す 例「～だよね。」「～してください。」
- ⑧ 相手に問いかけながらか話す 例「だと思  
うけど、どう？」「こ  
こまで分かる？」
- ⑨ 体を使って話す（身ぶり、手ぶり）
- ⑩ 友達の話や叙述を自分の言葉で話す

話してよかった！  
聞いてくれてありがとう



#### 聴き方 レベルリスト

### 聴き上手を育てましょう！

- ① 体（おへそ）を向けて
- ② 話し手と視線を合わせる
- ③ うなずきながら
- ④ アクティブワード反応
- ⑤ 自分なりの反応を返す（ワンフリーズ）
- ⑥ アウトプット（話したことのリピート）
- ⑦ アウトプット（考えのつぶやき）



(2) 研究授業（Google ジャムボードによる授業評価

Chromebook を活用した授業評価を行う。ATTR の場面にそって、成果と課題を色別シートで送信し、参観者はリアルタイムで意見を共有する。

(2) 期間限定

①相互授業参観

他学年参観を行うことによって、目標となる学習の姿を学ぶことができるようにする。

②学習アンケート

学習アンケートを年4回に行い、現状の成果と課題を把握する。

③オーセンティックな学びの実現

相手意識や目的意識を高めることを通して探究活動をより充実させるためにも、県内外の学校や企業等、外部講師とつながって、よりリアルな（本物の）学びに触れられるようにする。

## VII 研究を推進する体制づくり（「いしかわ学びの指針12か条」との関連）

学力向上	ICT	道徳教育	英語教育
<ul style="list-style-type: none"><li>・アクティブノート</li><li>・相互授業参観</li><li>・学力向上ロードマップ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・GIGA校内研修</li><li>・Chromebook</li><li>・オンライン</li><li>・端末の持ち帰りによる家庭学習</li><li>・プログラミング</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報モラル</li><li>・出張道徳</li><li>・道徳ファイル</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英検・英検Jr</li><li>・環境整備</li><li>・朝自習の取組</li><li>・昼の英語放送</li></ul>

(1) 低・中・高学年部会による授業づくり **（学びの指針1, 2, 3）**

児童の発達段階を考慮し、指導体制の工夫と評価の仕方を研究する。

(2) 4つのプロジェクトチームによる基盤づくり **（学びの指針4, 5, 6, 7, 8）**

4つのプロジェクトチームを連動させることで、組織的に基盤づくりを行う。

(3) 校内研修会（OJTを含む）の実施 **（学びの指針10, 11）**

3つの部会と4つのプロジェクトチームの横のつながりを保ち、共通理解を図るための校内研修会を積極的に行う。若プロの研修も積極的に行い、1人1回、メンターとしての講師を務める。

(4) 幼保小中連携や小小連携 **（学びの指針10, 12）**

幼稚園・保育所や中学校、また先進校との連携を図り、指導改善に努める。

(5) 通信や授業参観等による保護者・地域との連携 **（学びの指針9, 10, 12）**

定期的に発行する通信や学校報、ゲストティーチャーを招く授業、保護者へのアンケート調査等、地域に開かれた学校を目指す。

## Ⅷ 研究組織

### 1 学校研究・GIGA 推進委員会

校長（松中），教頭（中山），主幹教諭（畑中），研究主任（山岸），GIGA（松本，中村），学力（上野），推進委員（八島，笠間）

	学力向上	I C T	道徳教育	英語教育
低学年部会	◎上野，八島	浅野，向井	◎今井，北出	金岡
中学年部会	山岸，品川，堀田	田中，辻	坂口	◎吉川，田中
高学年部会	中村，松浦	◎松本，長田	笠間	井坂

◎…各部会及びプロジェクトチームのリーダー

## Ⅸ 計画・要請訪問等に関する共通理解

研究授業の形態	指導・助言者		参加体制			
	言者		事前研	模擬授業	授業参観	整理会
計画訪問（指定以外）	指導主事		各ブロック	なし	各教科	
要請訪問			各ブロック	なし	各ブロック	
計画訪問（指定）			各ブロック	必要に応じて	1 2 3・	
公開校内研修会（指定）					4 5 6部会	
スマイルサポート等			応相談			

※原則，1人1回以上の研究授業を行う。ただし，市教研で研究授業を行う場合は，学校研究での研究授業を免除することができる。

- (1) 事前研にかける時間を最大45分とする。そのため，授業者は学習指導案の事前配布を行い，授業者以外は，事前研前に読んでおく。学習指導案の全てについて議論するのではなく，論点を絞って事前研を行うように心がける。
- (2) 中能登教育事務所への指導案提出の期限は4日前の16:30までとなるので，本校は5日前までに提出することとする。
- (3) 指導案提出の際には，①授業で使用する資料や問題（授業者準備）と②研究の概要が分かるような簡便な資料（研究主任準備）と③授業整理会での協議の視点及び助言の時間（各部リーダー準備）を添付する。
- (4) 授業整理会の司会は原則，研究推進委員が務める。（司会原稿，進行計画，参観用ジャムボード）  
低リーダー（八島），中リーダー（山岸），高リーダー（笠間）

## Ⅷ 年間計画について

月	全体研	ブロック研	GIGA	予定
4	全体研 ・研究ビジョン説明			要請訪問の日程決定
5	全体研（提案授業） ・4年国語（山岸）		スタート期動画	学習アンケート
6			チャレンジ期Ⅰ動画	中旬計画訪問
7				学習アンケート
8				
9	全体研（2学期の取組）		チャレンジ期Ⅱ動画	
10	19日計画訪問（指定授業） ・1年音楽（八島） ・6年国語（笠間） 全体研（訪問を受けて）			
11				学習アンケート
12		要請（指導案検討） ・3年国語（田中） ・6年体育（中村）		
1	全体研（3学期の取組確認）			
2			公開校内研修会 ・3年国語（田中） ・6年体育（中村）	学習アンケート
3	全体研（総括・次年度に向けて）			令和5年度学校研究 まとめ